

寒さの厳しかった冬も終わり、桜の花が咲き始める季節となりました。

本日、私たち HPS 養成講座 13 クール生は 8 名で修了式を迎えます。

まずは、本日までご指導くださった先生方、先輩 HPS の方々、総務部の方、事務局の皆様、そして私たちを導いてくださった全ての方に一同を代表し、心より御礼申し上げます。

思い返せば、5ヶ月前の 10 月 25 日、これから始まる日々に期待と緊張を胸に抱きながら向かったこの場所で

私たち 11 名は出逢いました。中には、かつて先輩後輩だったというメンバーもあり、何か不思議な縁を感じた始まりでした。

今回は始めて薬剤師として受講するメンバーもあり、

年齢だけではなく職種を超えて同じ志を持つ仲間に出逢えたことを嬉しく思うと同時に、これからこの仲間ですっと一緒に乗り越えていくのだという思いが刻まれたのを今でも覚えていています。

初めの頃は、笑い合いながらも少し緊張をしていましたが、

講義の中で遊びを通してお互いをより知り合うことで、どんどん心の絆を深めていくことができました。

私たち 13 クール生は、一人一人は自分が思うように過ごしながらも、

いざ結束する時はもの凄い力を一緒に引き出すことができる仲間でした。

そんな仲間の存在を心地よく、そして本当にいつも心強く感じていました。

連日行われる様々な領域の先生方の講義から、幅広い知識や技術を吸収することで精一杯な毎日でしたが、

皆で分担し共有しながら必死に習得しようとしてきました。

HPS として求められる視野の広さと奥深さを改めて感じるほど、

これから自分たちにできるのかという不安がよぎることもありました。

学んだことを職場に戻って試し、うまくいくこともあればいかないことも多く、

時に心が折れそうになった仲間もいましたが、皆で助け合いながら一緒に歩んできました。

また、クレア先生の講義では始めに、

『病院だから何かしなくてはいけないのではなく、まずは楽しむことが大切』、『遊びを通して子どもは患者から子どもになることができる』ということ学び、

医療の中での遊びとの向き合い方を改めて振り返る機会になりました。

そして、松平先生が常々に仰っていた『遊びの中でまずは自分自身が楽しむ』ということ

を

クレア先生はキュートな人柄を通して日々教えてくださり、

講義最終日に撮った集合写真の私たちの笑顔は今までで最高に輝いていました。

実習では、学んだことを踏まえて臨んだものの、子どもの気持ちに十分に伝えられず、落ち込むこともありました。そんな時は先輩方が指導を通して HPS マインドを伝えてくださり、

まずは子ども自身に向き合うことの大切さを教えてくださいました。

実習を通して出逢えた子どもやきょうだいさん、そしてご家族と過ごした時間はこれから私たちが HPS として活動していく上での原点になっていくと思います。

多くの学びを頂き、出逢えたことに本当に感謝しています。

約半年という短い期間の中で、自分自身の課題と向き合いながら、

HPS として自分が目指していくべき姿を確立していくことに、

もがきながらも仲間と励まし合いながら一緒にここまで歩んできました。

台風や大雪など度々天候に悩まされた日々、アロマの香りや音楽に癒されながら過ごした昼休憩、

いろんなことを話し合った食事会、そしてホテルで何度も語り明かした夜は私たちにとってかけがえのない時間です。

そのような楽しいことばかりではなく、一時期は誰もがモチベーションを維持することが難しくなるほど落ち込んだ時期もありました。

それでもこうして今があるのは、仲間たちと支え合ってきたからだと思います。

修了を迎えた今、これからは養成講座での学びを糧に、子どもたちとたくさん遊び・関わりながら経験を積み、

ホスピタル・プレイの専門家として、観察の視点やそれに合わせた遊びを考えられように、それぞれの自分のフィールドで目の前のことに一つずつ向き合っていきたいと思います。

13 クール生は保育士・看護師・薬剤師と職種も様々で、離れ離れになりますが、

心では繋がり、お互いを刺激し高め合っていく仲間ですとあり続けたいと思います。

最後になりますが、未熟な私たちを支えて下さった全ての方々に改めて感謝を申し上げ、修了生 8 名の思いを代弁し、答辞とさせていただきます。

今後のホスピタル・プレイの世界のさらなる発展を願って。

平成 30 年 3 月 24 日

HPS 養成講座 13 クール生代表

村田麻耶